

令和 3年 9月

小作大賢 学位論文審査要旨

主 査 梅 北 善 久
副主査 岡 田 太
同 原 田 省

主論文

Differential expression of estrogen receptor subtypes in ovarian high-grade serous carcinoma and clear cell carcinoma

(卵巣高異型度漿液性癌と明細胞癌におけるエストロゲン受容体の発現)

(著者：小作大賢、大石徹郎、川村直、飯田祐基、小松宏彰、工藤明子、千酌潤、
佐藤慎也、原田省)

令和3年 Reproductive Medicine and Biology 掲載予定

参考論文

1. Re-classification of uterine cervical cancer cases treated with radical hysterectomy based on the 2018 FIGO staging system

(広汎子宮全摘出術を施行した子宮頸癌症例のFIGO2018進行期に基づいた再分類)

(著者：小作大賢、小松宏彰、大川雅世、飯田祐基、佐藤慎也、大石徹郎、原田省)

令和3年 Taiwanese Journal of Obstetrics and Gynecology 掲載予定

2. Serum vascular endothelial growth factor A and vascular endothelial growth factor receptor 2 as prognostic biomarkers for uterine cervical cancer

(子宮頸癌における血清VEGF-AとVEGFR-2の予後予測因子としての意義)

(著者：澤田真由美、大石徹郎、小松宏彰、佐藤慎也、千酌潤、野中道子、工藤明子、
小作大賢、原田省)

令和元年 International Journal of Clinical Oncology 24巻 1612頁～1619頁

審査結果の要旨

本研究では卵巣高異型度漿液性癌（以下、漿液性癌）および明細胞癌について、初回手術時に採取した腫瘍組織を用いて、ER α 、ER β 、およびGPER-1タンパク発現と臨床病理学的因子及び予後との関連を検討した。漿液性癌では、ER α または細胞質内GPER-1の高発現患者は有意に予後不良であり、多変量解析の結果、細胞質内GPER-1発現が無増悪生存期間における独立予後因子であった。明細胞癌では有意差は見られなかった。漿液性癌細胞株にsiRNAを導入し、GPER-1遺伝子発現の抑制を行うと、細胞増殖が40%程度抑制された。またGPER-1アンタゴニストを漿液性癌細胞株に添加すると、細胞増殖は濃度依存性に抑制された。以上の結果より、漿液性癌では細胞質内GPER-1発現は細胞増殖を促進している可能性が示唆された。以上より、本論文は婦人科腫瘍学の分野で、明らかに学術水準を高めたものと認める。